

R5年11月放送分
「令和5年版防衛白書について」
(日本の防衛Q & A)
(自衛隊百科)

R5.10.24 収録

【パーソナリティー】

今月の放送は、東北防衛局の中野局長からお話を伺います。中野局長、よろしくお祈いします。

【局長】

はい。よろしくお祈いします。

【パーソナリティー】

本日は、令和5年版防衛白書についてお話しをいただきます。今、私の手元に防衛白書があるのですが、まず気になるのはこの表紙の「防衛白書」という文字ですね。有名な書道家さんが書かれたものですか。

【局長】

早速表紙に注目していただき、ありがとうございます。この表紙の文字は、実は自衛官が書いたもので、航空自衛隊三沢基地に所属している野誠2曹が、全自衛隊員27万人を代表して、しなやかで勢いと力強さのある文字で、防衛省・自衛隊の「新たな決意」を表現したものです。

【パーソナリティー】

それは素晴らしいですね。これが書店に並んでいたら、思わず手に取ってみたいくなる人も多いと思います。

【局長】

防衛白書は毎年3万部以上発行されており、今年の書店での販売数は1万4千部となっています。

【パーソナリティー】

1万部売れたらベストセラーとか耳にしますが、防衛白書は毎年そ

れほど売れているんですね。

【局長】

それだけ国民の関心が高いのだと思います。

今年の防衛白書は、いわゆる防衛3文書といわれる「国家安全保障戦略」と「国家防衛戦略」、それに「防衛力整備計画」が昨年12月に策定されたあとに初めて出される白書であり、厳しさを増す安全保障環境の中で、わが国の強固な防衛意志と堅固な防衛態勢についてしっかりと発信すべく、次の6点について記述しています。

1点目は、ロシアによる侵略とウクライナによる防衛について、

2点目は、中国、北朝鮮、ロシアの軍事動向とそれに関連して米中間の競争と台湾をめぐる情勢について、

3点目は、いわゆる防衛3文書の策定の経緯とその概要について、

4点目は、防衛力を抜本的に強化する最初の年(元年)にあたる令和5年度予算について、

5点目は、「情報戦への対応」や「継戦能力(戦い続ける能力)を確保するための持続性・強靱性強化の取組」を含むわが国の防衛力の抜本的強化について、

最後の6点目は、防衛生産・技術基盤と人的基盤の強化に向けた取組についてです。

【パーソナリティー】

なるほど。この6点の中で中野局長が是非、リスナーさんにお伝えしたい点は何ですか。

【局長】

はい。国民の皆さんが感心を持っているのは、やはり1点目のロシアによるウクライナ侵略と2点目の中国、北朝鮮、ロシアの軍事動向であると思います。

ロシアによるウクライナ侵略は、国連憲章を含む国際法の深刻な違反であり、このような力による一方的な現状変更は、欧州のみならずアジアを含む国際秩序の根幹を揺るがす行為です。

こういった侵略行為を容認すれば、他の地域でも力による一方的な現状変更が認められるとの誤ったメッセージを与えかねず、わが国を含む国際社会として決して許すべきではありません。

今回の軍事活動によって、今後、ロシアの中長期的な国力の低下や周辺諸国との軍事バランスに変化が生じる可能性があります。また、アメリカに対抗するために、ロシアが中国との連携をより深化させる可能性があり、こうした動きがグローバルな国際情勢に与える影響についても注視が必要です。

2点目の中国、北朝鮮、ロシアの軍事動向についてですが、まず、中国の軍事動向は、わが国と国際社会の深刻な懸念事項であり、わが国の総合的な国力と同盟国・同志国などとの協力や連携により対応すべきものです。

近年、中国は、尖閣諸島周辺を含むわが国周辺海空域における活動を拡大、活発化させており、行動を一方向的にエスカレートさせる事案も発生しています。

また、中露両国による度重なる共同での活動は、わが国に対する示威活動を明確に意図したものであり、わが国の安全保障上、重大な懸念となっています。

次に、北朝鮮ですが、北朝鮮の軍事動向は、わが国の安全保障にとって従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威となっており、2022年にはICBM級を含む弾道ミサイルの発射をかつてない高い頻度で繰り返すなど、挑発行為をエスカレートさせています。

【パーソナリティー】

やはり、北朝鮮のミサイル発射情報が速報で流れるとドキッとしますね。北朝鮮による弾道ミサイル発射について、どのように記述されていますか。

【局長】

防衛白書では、北朝鮮は、2022年に弾道ミサイルなど少なくとも50発以上の発射を繰り返しており、その中には、2017年以来となる我が国領域の上空を通過させる形での弾道ミサイル発射を強行したこと、低空を変則軌道で飛行するミサイルを様々なプラットフォームから発射し実用化を追求しているとみられること、「戦術核運用部隊」の訓練として連日のように弾道ミサイル発射を繰り返すなど、

運用能力の向上と誇示を図っているとみられること、といった点について記述しています。

【パーソナリティー】

なるほど。北朝鮮の核開発の状況については、どのように記述していますか。

【局長】

はい。北朝鮮は、アメリカの脅威に対抗するため、アメリカ全土を射程に含む長距離ミサイルの開発と併せて、核兵器の開発を進めてきています。また、近年では、朝鮮半島で生じ得る武力紛争への対処を念頭に、戦術核兵器の開発や大量生産を追求する姿勢も示しています。

2022年には核兵器の使用条件などを定める法令を採択したほか、核兵器の搭載を念頭に置いたとみられる弾道ミサイル発射を繰り返すなど、核兵器の実戦での使用を想定しつつ、核・ミサイル運用能力の向上と誇示を図っている可能性があります。

また、北朝鮮が更なる核実験を実施するための準備が整っている可能性があり、ICBM級弾道ミサイルの多弾頭化や戦術核兵器を実用化するため、核実験を通じて核兵器の一層の小型化を追求する可能性も考えられます。

防衛白書では、こうした核兵器計画の現状や背景、今後の見通しについても記述しています。

【パーソナリティー】

詳しく説明いただき、ありがとうございました。

それでは防衛白書を実際に読みたい場合はどうしたらよいですか。

【局長】

はい。令和5年版防衛白書は、1,400円ほどの価格で書籍として販売されるほか、防衛省ホームページから無料でダウンロードして閲覧することができます。

【パーソナリティー】

ありがとうございました。

本日は、令和5年版防衛白書について、東北防衛局の中野局長からお話をお伺いしました。中野局長、どうもありがとうございました。

【局長】

こちらこそ、どうもありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆様からご意見・ご感想を募集しております。

お聴きのコミュニティ放送局までご連絡ください。